

議員とカダる会（議会報告会・意見交換会）報告書

開催日時	平成27年10月25日（日） 13時30分～15時45分
開催場所	浪岡中央公民館 3階会議室
会場責任者	中田靖人
記録者	奈良祥孝・小倉尚裕・中村節雄・橋本尚美
出席議員	中田靖人・小倉尚裕・花田明仁・館田瑠美子・長谷川章悦・斎藤憲雄 奈良岡隆・木下靖・村川みどり・山本武朝・天内慎也・橋本尚美 以上 12名 ファシリテーター・・・青森大学准教授 榎引素夫氏
参加者数	7名（全参加者数20名）
報告内容	① 平成27年度青森市一般会計補正予算（第4号）の修正について
報告に対する 質疑・意見・回 答の要旨	質疑：なし 意見：なし 回答：なし
報告内容	② 青森駅周辺整備推進事業について
報告に対する 質疑・意見・回 答の要旨	<p>質疑（市民）：JRが青森駅をいつまであんな不便なところに置いておくのか。青函連絡船があった時は、よくわかるんです。効率がよかろうが悪かろうが船が出るわけですから駅に行くのはわかるんです。なおかつ、駅周辺がすごく流行っていて、人が沢山来ていて、観光客や市民が、あそこが中心だというならわかるんです。あれだけ電車が廃止しているよね。自分たちはやめて、青い森鉄道にどんどん負担を押しかぶせているJRが、どうしてあそこに駅をいつまでも置いておくのか。多分、昔の恩義を忘れないということだけだろうと思いつつ、そのこと抜きに駅周辺という議論をして、なんなのかというのが一番気になるところです。</p> <p>回答（議員）：JRが青森駅を現存させる意味というのは、当面、津軽線と下北大湊線を廃止する考えはない。その時の出発点は青森駅ということ、更に奥羽線の出発点として必要である。なので青森駅を手放すという話にはならない。おそらく高速バス路線に転換した大船渡線のようになれば、新青森駅を起点にしてJRが手をかけるかもしれない。しかし、時期によって寝台列車を運行したり機関車の入れ替えのためにも、入れ替え線が必要になるため、その機能を利用するため、青森駅をなくさないという考えだ。</p> <p>質疑（ファシリ）：青森駅を新しいもっと便利な場所に動かせということですか？</p>

意見（市民）：あそこにあるという必要がないんだったら、止めた方がいいと思っているだけ。もっと一直線に古川なり、話題になっている昔のJRの跡地のなんとか広場だったり、ああいう所に持っていったり、どこだっているのはわからないので、どうでもいいけれども、キックバック方式というのは電車にとって、大曲以外ではあまりないはずなんです。いつまでに駅を建て替えるの話まで市民から出てきて、窓口、顔だからって、話が出てくるんだったら、それはJRにとって、あそこにいつまでもってというのは、ずっとあったわけよ。でも、今の話だと、入れ替えだとか新しいものを作るよりは、あそこに残っている方が効率的だっていうのなら、それも一つの考え方だから、それなら街づくりを考えればいいと思っている。

質疑（市民）：青森駅周辺整備推進事業について、事業の内訳と財源内訳があります。その中で財源内訳を見ると、本来であれば一番利益を受けられるJRが自分たちの駅舎とか入っている話なのに、なんでお金を出さないのか、逆に、市の財政が悪い中でも、市債が61.3億円という投資をするに当たっての費用対効果という面で疑問に思う。

回答（議員）：JRの負担分がなぜないのかという点にお答えします。明確になっていないので、この内訳表には載せていませんが、昨年の段階で事業費の5%、約4億円くらいという市側からの回答がありました。なので微々たるものですが、負担はあります。補足すると、国交省で出している要綱の中に、大体これくらいのパーセンテージとJRの負担が決められています。費用対効果に関しては、青森駅周辺整備事業というのが駅改修ではなくて、駅周辺整備ということですので、中心市街地活性化基本計画いわゆるコンパクトシティの計画の中の拠点整備ということで位置づけられていることを考え、必要性があるという意見も議会の中にあり、さまざま議論していく中で、市長は来年の3月までに駅周辺整備をやることを前提として、予算の圧縮をJR東日本と協議していくというのが今の経過です。

意見（議員）：青森駅周辺整備推進事業は東西自由通路と駅舎と西口駅前広場の整備になります。自由通路は約100億円近い予算が必要だと言われています。通路の長さは200メートルくらいですが、1メートルに換算すると、5000万円くらいになります。都市計画道路の整備費用と比べると、10倍以上経費がかかり、自由通路は市道扱いなので、全額市が負担しなければならないので（事業実施は）考えられません。昔であれば、沖館や油川とかの西北部地域の人たちが、市の中心部と分断されていたため、自由に往来出来る通路があればいいという声も大きかったが、今では時代が変わり、ベイブリッジとあすなろ橋が出来たということもあるし、車社会となって買い物をするために新町に行く必要がないという人が多い。ですから費用対効果と言っても、青森駅周辺整備推進事業は一番お金がかかるのでやる必要

がないし、やることによって、将来にすごく大きな借金を抱えることとなります。青森駅周辺整備推進事業を入れなくても、市役所の建設費でお金がかかり、10年後には借金返済のピークで4億3千万円かかります。それを考えると、最終的には市民サービスの切り捨てとか、大きな影響が出ることになると思うので、やるかやらないか、青森市民にとって浪岡の皆さんも含めて大変重要なことだと考えます。

意見（議員）：自由通路は鉄道の上に整備するので高い技術が求められ、費用が高価になります。先ほど費用対効果の話もありました。現時点では、東西自由通路でもう一つ、隣接する形で都市機能サービス施設、これも整備していくと、これは後で協議して決めていくということになっています。ただ、このタイミングで市長が一旦立ちどまると、整備をするけれども立ちどまって見極めていくということを決断出来るのであれば、抜本的な所も見直しを図っていてもいいのかな、と、JR東日本と本当に地に足のついた話し合いをしてもいいのかなと、多くの市民は鉄道の線路で東西分断されているという現状の駅の状態、これを変えることが出来ないのかなあというふうに思っていると思います。ただ古川跨線橋側の方にですね、切り替え部分、それから地中の埋設施設、こういった物が沢山あって、これを移転するとしたら、仮にセットバックして北側の方から南側の方に下げますと——セットバックするとなれば切り替え部分だったりとか、埋設施設、これの移転費用だけで何十億もかかるという事がありますので、これまではJR東日本はそれを負担したくないし、やりたくないとありました。ただ、今後青森市の街づくりの中で、この現青森駅を中心としてどうしてもやっていきたいんだというふうな市の発信があって、JR東日本もそれにのって来てくれさえすれば可能性はゼロではないのかなあと、要は今ある長い鉄道を切って東と西を道路で繋いで、要は上野駅みたいな駅にすると、近いところ言えば函館駅みたいな、頭から入って行って新町通りから見るとそのまま駅があるというふうなことも可能性としてはゼロではないと思います。そうなるとう東西自由通路も必要なくなる。こういった諸々のことを考えていく必要があるのかなと思いますので、延びた、それをメリットとして考えるのであれば、ポジティブにいけば街づくりの拠点を青森駅としながら、そういったような可能性を模索すべきだと思います。

意見（市民）：主婦の面から言わせてもらいますけれども、この事業というものが本当に必要なのか、財源があってこそできることであって、財源もないのに事業を進めて、それを市民にまた背負わせるということであれば、よくないと思います。本当に市民の負担ということをもっと考えてほしいと思います。そうでなくても市民はいろんなことで今、消費税とかもまた上がるし、生活も本当に大変なんで、これ以上負担を多くしないでほしいと思います。

意見（市民）：これを好機としてって考え方、ないわけではないというのに乗っかって言わせてもらおうと、今の青森駅が現状プラス新町の状況、市民の誰が困っているんですか？あのままだと誰が困るんですか？あの寂れた新町の商店街があんまりと誰が困るんですか？市民の日常生活の中であれを求めている人は何割の人がいるんですか？青森駅があんまりでなければならぬと思っている市民が何人いるんですか？それを考えてさっきの話に続けていって欲しいと、つまり、見直すという部分、コンパクトシティって本当にこの街でできるんですか？コンパクトシティって僕の場合で言えば青森空襲が何かで崩壊した時に、新しい街をつくる時に、コンパクトシティっていう感覚はあるかもしれない、だけど、こんだけの浪岡を含めて新城も含めて浅虫も含めて、みな日常生活持っているし、商店街を持っているわけよ。商店は持っているわけよ、もう生活は困っていないわけよ。はっきり言えば何かデパートがなくなったからといって、日々の生活に困らないわけよ。新町の売り子のとんかつ屋さんなくなったから困らないわけよ、寂しいだけで。さっきの顔とか、そういうようなイメージで言えば、イメージはそうだよ。人を連れてきた時に、あそこに知り合いを連れて行ったら、お前の街は寂しい街だよな、とこう言われる。それは寂しいさ、こっちに振られればね。実害以外のどんな実害があるのかと議会で議論されているのか。行政じゃないですよ、議会、市民の代表たるあなた方がどういうふうに議論されて、なおかつ中心市街地活性化だとかコンパクトシティを評価されているかを知りたい。ここで回答を聞きたいわけじゃないよ、長々と1時間2時間しゃべってくれってことじゃないから。ものすごく検討していて、それが問題なんだと言うんだしたら、それはそれでその一言でいいんだけど。やってるかっていうこと。

回答（議員）：今、コンパクトシティを進めないことで、実害を誰がかぶるのかってところに関しては、コンパクトシティを進めていっても実害が出る人っていうのは、現状でもないんだらうと思います。商業施設として商業のエリアとして新町を見た時には、もう既にその街の役割は終わっていると思います。浜田地区を見ると、答が出ております。サンロードができ上がって、中心市街地の衰退はその時から始まりました。そして、その後イトーヨーカ堂ができて、サンシティもできて、あそこにもう商店は移転しております。青森市は、ただ新町というのは、じゃ商店として物を買う場所としてだけで見ていいのかという所があると思います。そこには、街の歴史だったりとか、合理性の部分で話していくと限界でできますけども、ただその街の長所だったりとか歴史的な物だったりとか、そこに例えばいろんな地域の方々が集うような所だったりとか、先ほどの写真にもありました青森館も今、村上病院で高齢者をつくるようになっています。高齢化が進むと人口が減るという中であっては、もしかしたら将来の形も抜本的に変わるかもしれません。今それにインターネットが普及してアマ

ゾンっていうもので買い物して、家にいても物を宅配で運んでくれる。要はその生活のスタンスっていうのは形式が既に変更してしまうというのが、今、ドラスティックに変わる、10年20年後はもっと変わるかもしれない。ただ青森市で今、生きている人口で、何故コンパクトシティっていう概念で街づくりしなくてはいけないのかというのは、人口が減っている2040年までに多分、私はまだ生きていますが、2040年であれば、その時までには今よりも約9万5千人、人口減る。これ国の推計ですので、それでどういった現象が起きるのか、実際なってみないとわかりません。ただ人口が減っていく中で合理的な街づくりを進めていく、都市機能部分を街中に集積させる、外側になるべく広げないようにする、こういったことを行政としてそれが実現できるかどうかわかりません。標榜して街づくりをなるべくこれに近づけていくということは必要な措置だと思っています。その中であって駅というのが本当に必要ないというのが多くの市民の意見であれば、基本的にはやめざるを得なくなるでしょう。ただ国が今、国がですよ、青森市が六ヶ所みたいに地方交付税不交付団体、自分たちで賄えるというふうな街であればいいです。1300億円ほとんど自分たちで賄えるという街であればいいですけども、残念ながら青森市は約3割、あとは国と県とかから仕送りをもらいながら、賄っているという現状です。その中であって街づくりを進めていく中のメニューを、なるべく多く獲得しなければいけない。ひとつの課題です、その中であっては、例えば青森市がいろいろ議論しながら進めていきたいと思っています。

意見（市民）：交付金ってのは、国のお金だよ、アメリカから貰ったり中国から貰ったりするわけじゃないよね、我々の払った税金だよ、今、幾ら借金もっているの、国民1人当たり1000万円の借金、ここから出てるお金なのよ。それを貰えるからやるっていう。その発想そのものがもう既に陳腐なんじゃないの。

質疑（ファシリ）：じゃ、もらわないほうがいいっていう考えですか？

意見（市民）：もらうべきじゃない。もらわなくて済むものは、何のためにもらうの。だってあそこで中心街が活性化するならいいのよ、お金もらって。そういう案をつくれるならいいの。かもしれないだけでお金もらうのはもうやめようよということ。

質疑（ファシリ）：この問題について議会がやらなければならないことは何か、議会がやるべきことは何かについてお考えをお聞かせいただければと思います。

意見（市民）：財源の問題は一番大事だけれども、その前に無駄なお金をつかわないという意味においては、実行可能性のある街づくりとい

うものを、もう一回、ちゃんと考えないと、青森はもう破綻してしまいますよと言いたい。つまり、コンパクトシティにしても中心市街地にしても、圧倒的多数の地域で失敗しているわけです。中心市街地一つにしてもシャッター通りなのは、全国どこの地域でも起こっていることよ。単に商店街じゃない商店じゃない、街の中心って言葉になるかどうかだからわからないんだけど、新町づくりだよ。今の既存のああいう施設なんかも使いながら、そういう物を考えることを含めて新しい街づくりをきっちりと考えていく議会であってほしい。行政はね、考えられないと思うのよ、縛られているから。お金をかけてアドバイザーを呼んだり何かして、コピーとったら何十ページになるかわかんないやつの、街づくり基本構想を持っているわけよ、行政は。だけどああいうんでこの街をつくれるって誰が思うのってくらいの空虚な内容になっていると思っているわけよ。そして、なおかつ、去年つくったのならわかるよ、もう10年も20年も前からコンパクトシティは言われてるし、中心市街地の没落は言われているし、にもかかわらずやってる事は中心市街地活性化であり、こういう無駄なことはもうやめようよと、あなたがたもお金も含めて皆で担っているんだから、さっきお金のこと言ったけども、この青森駅周辺整備事業、国の交付金55億、一般財源6.9億、両方とも市民のお金なのよ、これはどっかのお金じゃないのよ、企業が稼いだお金の寄附金じゃないのよ、ということを理解して街づくりをしていかないと、どこの地域も本当に破綻している。日本中が今、一生懸命破綻に向かって歩んでいるんだというふうに思います。

質疑（ファシリ）：今までの総括を議会として、それをどのような形で担保するか、評価という点について議員から、こういうアイデアを実は持っているとか、こんなふうな形で取り組んでいるとかの情報提供、ご発表を。

回答（議員）：街づくりの総括ですね、議会としてもやっていかななくてはいけないとは思っています。実はこれ、今、議会改革、この議会報告会自体もですね、議会基本条例にのっとってやっていますけれども、議会運営委員会という中で、例えば、今日参加していただいた市民の中からいただいた意見を、どういうふうに街づくりに反映していくかと、PDCAサイクルですね、こういったものをどこで所管してやっていくかというふうな話し合いをしている最中でした。これについては、議会広報広聴特別委員会と基本的には議会改革検討委員会というほうでも所管して、市民からいただいた意見をどのように反映していくかという動きになるのかなと思います。今日いただいた意見もひとつでありますし、これからも途中ですけれども市役所庁舎建設計画、こういったこともありますし、多くのことに目をやりながら市民からいただいた意見を市政に反映できるように、サイクルを構築していきたいと考えています。

意見（市民）：今日ここに来る時にタクシーに乗ってきたんですが、タクシーの運転手さんに今日なんか公民館であるんですかと聞かれたんです。だから今日あるってことも知らない人が多いと思うんです。ですから午前中にでも街宣車で回って市民に知らせた方がいい、じゃもっと参加者がふえるんじゃないかなとタクシーの中でそう思いました。できたら、今日は農家の方も天候もこうですので、もうちょっとそうしてやってくれば参加者もふえたんじゃないかと思います。

回答（議員）：今の今日の広報、貴重な意見ありがとうございます。先程一つのアイディアもいただいたので、要は旧浪岡地区の街の防災無線を使ってガンガン流したらどうだって、そのアドバイスもありましたので、次回、浪岡で開催の時にはそれを広報の手として使わせてもらいたいと思います。本題の青森駅周辺整備推進事業、本当におっしゃるとおりで、どうしても我々議会っていうのは、市長側が提案したものを、これはどうなっているんだ、あれはどうなっているんだということで、監視、追及をするのが我々議会の立場ですけど、じゃあ議会もお前たちも汗していい知恵を出せってという本当にごもっともな意見なんですけど、駅周辺、駅そのものもありますし、中心市街地の活性化事業、国の、青森市、次の計画もやるのかとよく議会でも質問が出るわけなんですけど、単に市側がやっていることを追及して、これをやるのはどうだ、この評価はどうなんだっていうのだけじゃなくて、青森駅周辺整備推進事業がこの中心市街地いわゆる新町の活性化に本気で結びつくのかという、市側は計画したらそれも成功させなきゃいけないので、多少のことがあっても、しっかり議会側でも中心市街地活性化、青森駅周辺整備推進事業が全部絡んでいます。議会側としての、やっぱり闊達な意見する場をですね、次の議会があるときに市側に対して我々いろんな様々な会派がいつも意見をぶつけるんですけど、やはり議員間討議の中で様々な委員会をもうけながら、この部分でも本気に話し合う場が必要だと感じております。

意見（議員）：市長に予算執行権があつて議会にはそれはない、要は予算を提案してきて議会がそれを分析をして、正しいかどうかそれを最終的に1ヵ月ぐらい議論して最終日に賛成・反対で議決決定していくという所が地方議会の今までの姿だったんですが、様々なことが提案されてきたときに例えば反対するだけではなくて、対案をしっかりと示していくということもこれからの議員には求められることなのかなあと、逆にその、これだけの対案をつくって予算としてこれだけ必要になります。市長、了承してもらえませんかというふうな提案の仕方というのも今後していく必要があるのかなというふうに思います。そのためにも議員もですね、勉強をして資質を高めていかないといけない、で職員の皆様からもちゃんと正しい情報もらいながら、間違つた方向に進まないようにしていくということも必要かなと思います。

	<p>意見（市民）：この間のアウガの補正修正あれは一つの見本だと思うのよ、あれは総括で一つな訳よ、出来ないじゃないはずなのよ、やったんだからあれが正しいかどうかじゃないのよ、それは別の話よ。</p>
<p>意見交換内容 （質疑・意見・ 回答の要旨）</p>	<p>質疑（市民）：交付金についてはどう思ってるの、市民のお金だって感覚があなた方にはあるのってのを知りたいの。</p> <p>回答（議員）：おっしゃるとおり交付金も市民の皆さん、全国の皆さんからいただいた税金を全国各地に交付しているものなので、大切な市民の皆さんの税金だと思っています。その使い方もやっぱりきちんと議論して、本当に市民の皆さんに必要なものなのかどうか、いなければそれこそ使わなければいいし、国に返すという方法もあるだろうし、その使い方はやはりきちんと議論して決めていくべきだと思います。</p> <p>意見（市民）：交付金というと、その原子力のところの町だとか災害の町だとか、皆いろんなところでもらっているよね、もらわなきゃ損だという感覚がまず行政にあるわけよ、それを監視するのが市民の代表のあなた方だから、交付金と言われた時にそこで目を閉じちゃうんじゃないくて、今のように交付金も同じ市民のお金なんだという感覚でチェックしてほしいのよ、国のやつら、やつらって言葉を使ってあえて言わせてもらうけど、あいつら議論してないんだから、そんなことは、行政がつくった交付金というお金の項目、それを一生懸命確保するのが、国の行政のやつらのやることなの、そういうお金だっていうチェックを誰もしてない、一番チェックできるのはあなた方なのよ、市民目線で、市民のポジションで、それが市議会だってことをさあ、こんだけ借金つくったのよ日本は。</p> <p>意見（議員）：なかなか難しいですよ、それは。今現在1200億円の年間の当初予算でずっときていて、市長が当初予算を提案して、それをチェックするという立場できているもんですから、国からずっと右倣いできて、これは確かに悪い習慣と言えれば悪い習慣、公金をもらわないで済めば、ただ現実の問題でこれ急にできないと思います。それをいかに減らしていくか、限りある財源ですからそうしていくしかないと思います。それで、さっきからいろいろご指摘があったように、私が議長を平成24年にさせていただいた時に、初めて議会基本条例ってつくらなきゃいけないということで、時の流れでもあり、地元の小倉議員が検討改革委員長としていただいてそれでできた、それでその結果、今日があるんですよ、だから今日がまさしく我々が議員が今度はただチェック批判でなくて、提案者、市長に対しての批判でなくて、我々がいろいろ、我々はこう思うこうしなきゃいけないというのをやっていって、まさしく今日何回目になりますか、その場だと思うんです。ですからまだ我々も議員の皆が慣れていないこともあり、これから議員各位の資質も高めながら、やっていくしかないのかな、時</p>

間もかかると思いますけども。市民からご指摘・ご批判があれば、議員が選挙のたびにかわるわけですから、そうやって回を重ねていくしかない、現実になると思います。あれになってないですけど一言。

意見（市民）：でも、そういうことでやっていかないと投票率が50%以下というのは直っていきませんよ、投票場所を何箇所つくったって、増設したって役に立たない議員の投票に行かないでしょ、ご自分だってそうでしょ、役にたっていないと思ったら行かないでしょ。という問題が抱えている。それは何度も言うようにあなた方だけじゃないのよ、国から何から皆そうなのよ、でそれは別に与党だから野党だからじゃないのよもうそれぐらい根が深くなっちゃってるところを変えていかないと、でもおれたちの子どもたちはいるんだよそこに、いくら少なくとも人が生まれるのが少なくなってもさ、孫は生まれてくるしき、子どもは生まれてくるしき、そいつらは1000万円抱えていくのよ、恐ろしい話よ、これからですなんていうふうに言ってほしくないくらい恐ろしい話よ。

質疑（市民）：新しい青森市役所は、結局海沿いのほうになっちゃうんですか。

回答（議員）：現在地です。

質疑（市民）：もうちょっと内部よりにできないの、旧操車場跡地だか何だかってだだっ広い広場あるでしょ、あそこら辺とか。

回答（議員）：実は今議決もしてですね、プロポーザル審査条例っていうのが可決して、設計会社も決まって現在地で建て替えるというのがもう決定しております。

質疑（市民）：それをもう一回覆すことはできないの？

回答（議員）：するとすれば、市長が決断すれば可能性はあります。ただ、市長がその考えは今の時点ではありません。現在地に100億円で建てるということで決定しております。

質疑（市民）：あそこ場所も狭いんじゃない。

回答（議員）：その狭い中で何とかやりくりして入れるという考えを市長はお持ちのようであります。

質疑（市民）：あっちの何とか公園の方が広ぐね？土地？

回答（議員）：様々そういう議論もしていたんですが、昨年の段階で意

外とパッと短いスパンで決まっちゃったんですね。

質疑（市民）：あそこ地盤的に大丈夫なの？

回答（議員）：調べて見たら杭が打ち込まれてあったりしたんですけれども、それも撤去して今新しく杭を打ってつくるというふうな話です。

質疑（市民）：議会がまた反対したら、ひっくり返るということはないの？

回答（議員）：具体的には今年の9月議会で庁舎整備の建設場所というのは決定したんですけれども、もちろんその議会の中では現在地に建てることについては賛否両論ございました、それこそ喧々譁々やったんですけれども、最終的には採決、多数決ですので、現在地でオーケーという事で議会で決まりました。で、今それにのっかって計画を進めます。この先変わることはないのかという話ですけど、それが可能であれば多分物事は進まないと思うんです。一回決まった物をどっかでもう一回ひっくり返そうと思ってそれができるのであれば、じゃあ議会での議決は何だったのかという話になってしましまして、実はあの私なんかも果たしてその現在地に建てるのがベストなのかという立場でした。実際に採決では反対していました。それこそ私、セントラルパークが市のものだし、隣に県有地もありますけど、青い森鉄道も通っているし、いいんじゃないかと思いましたがけれども、一旦議会で現在地っていうふうに決まったものに対しては、例え個人的には反対であっても決まった後は、それに添って進めていくのが筋だなというふうに考えています。不本意ではありますが。

質疑（市民）：地盤的に完全に大丈夫なの、それ？

回答（ファシリ）：委員の中で責任をもった回答ができる方がこの中にはおられないと思うので、持ち返らせていただいて、後ほど、回答を連絡させてください。

意見（市民）：この前の常総市なんか、川が氾濫して市役所も全部やられて防災機能としての役目を果たすことができなかつたきゃ、んだはんで地盤が悪いところさ建ででや、後々大きな地震でガクッと傾いたら、それこそ防災機能としての役割を果たせねきゃ。

意見（市民）：わからないこととかいっぱいあったのが、それを詳しく聞けたということが本当に来てよかったなと思います。いろんな意見も出されて。

意見（市民）：私は市役所の職員なので、あくまでも議員の方がどうい

う考えをお持ちで、それで住民の方がどういう考えをお持ちかということに興味があって、今日参加させてもらいました、貴重な時間をいただいて助かったと思っています。

意見（議員）：青森駅前周辺整備推進事業の問題から、交付金までってことですね、青森駅前周辺整備推進事業の部分については、ちょっと言わせていただきますけども、柳川庁舎のほうに弘大キャンパスがあります。そういったのもあってですね、ただ単に自由通路をつくれればいい、あるいは正面口をつくれればいいということではなく、西口についての街づくりもあわせて事業計画しなきゃなんないという部分では、現在のあの事業計画の部分ではちょっと不備があるんだろうというふうに思っています。ただ単にあの新町商店街云々ということではなく、あと、全国の商店街の中でも自分たちがお金を出し合って自分たちの商店街をどうするかっていう、お金が足りなくなったら行政のほうに補助金をお願いしたいっていうふうな、自分たちの商店街が自主的に事業計画をして、それを上に持っていきながらお金をもらうという、そういったのも一つの交付金の使い方だろうという風に思いますし、交付金の使い方そのものについてもですね、やはりこれまで建物行政と言われた部分でそのツケが今まわってきて、それをどういうふうにして、じゃあランニングコストなりあるいは解体するなり、そういった中で、じゃあ街づくりをどうするかっていうこうい部分では非常に以前からのそういったツケが今まわってきた中でのこの借金財政っていうふうな状態だっていうふうに思っています。そういう意味では、先ほど来言われましたように、議員がもうちょっと考える、交付金の使い方なり税金の使い方、そういったものをもうちょっと考えろということについてはですね、私としても真摯に受けとめて、これからも頑張っていきたいというふうに思っています。以上です。

意見（議員）：先ほど、新城の住民の方からいろいろ意見がありましたけども、まさにその通りだと思います。総括をするという大事なこと、今まではどうだったのかという検証、これはやっぱりこれからも大事なこと、私はそういうつもりで議員活動しています。なかなか議会で議論されていることが皆さんに通じていないので、わからないと思いますが、これまでも議会の中では、さまざま議論してきました。今言った庁舎の問題を、我々も、そのあそこの、低炭素モデル事業をやったセントラルパーク、あそこがいいのではないかということで、随分提案をしましたがけれども、結局あそこに建てれば、さまざまなインフラ整備、道路がどうのこうのとかいう、また、金かかると言われてきましたし、庁舎も含めてアウガも含めて駅前の問題、これも金のかかる問題ばかりでありますので、全体的に財政を見ながら、全体的に青森をこれからどうしたほうがいいのか、そのために庁舎があそこがいいのか、アウガが今のままでいいのか、青森駅前周辺整備推進事業はこのままでいいのか、ということきちっと総括しながらやるべきだということは何回も提案してきました。天下をとっている人の強み

でございますので、我々が提案されたことに対して喧々諤々、議論するしかない。最後は採決ということになりますので、非常に市民の皆さんには伝わっていないことがあると思います。ですから、その辺は我々の努力の怠慢でございますので、これから大いにそのこともやっていきたい。よろしくお願ひしたいと思ひます。

意見（議員）：皆さんが何も質問出なくなったときのために、浪岡の問題も報告準備してきていましたが、この次ということで、報告させていただきたいと思ひますが、私が議員になってから5年目になるんですけども、当初は浪岡の人からきかれるのが、ほとんど浪岡の問題はどうなっているんだとか、そういうのが多かったんですけども、今はやはり、青森のこともきかれるようになってきています。それはやっぱり、当然ながら財布が一つですし、自分たちの税金がどう遣われているんだという、そういう考えのもと、心配できいてくる方が多くなつたなあとと思ひます。やっぱり私も浪岡選出の代表の議員として、全体の大事な駅とか、そういうことも報告をしていかなければならないと勉強していかなければならないと思ひています。大変勉強させていただきました。

意見（議員）：今日は書記を担当しておりました。原点に立ち返るいいご意見もいただきました。と申すのも、国からの交付金だとか、助成金がもらえるからといってやればいいというような判断基準というのは間違いであつて、市民にとって本当に必要なものであるかどうか、その時点できっちり見極めるよう、チェックしてまいります。今日はありがとうございました。

意見（議員）：私は2点お話をしたいと思ひます。1点目として、浪岡地区で議会報告会を開催するのであれば、今回の議会であつた基金条例の問題、1億1500万円の基金を、今後浪岡地区でどのように活用すべきなのかを含めて、浪岡地区で議論されてきました。全国でも初めてである基金条例についての議論であれば、この報告会に参加する方はかなりあつたのではないかとと思ひます。もう1点は、今回の議会に提案された議案、平成27年度一般会計補正予算（第4号）情報コーナー管理運営についての修正案について、反対する立場でした。賛成27名、反対7名で我が会派は全員反対でした。個人的な意見として、まず、アウガの経営から行政（三セク）は手を引くべきであるというのが、私の一貫した考えであります。一つの手法として民間が経営するのが当然であり、アウガは公的な施設にするべきである。今回のこの提案は、公的な施設として活用する第一歩になるのではないかと考えたからです。いろいろ問題はありました。その中で総合的に勘案し、修正案に反対したというのが今回の私の立場でした。

○閉会の挨拶

○終了

記録者所見	議員として、皆さんの生活を守る、行政を監視して、税金の使われ方をチェックすることが大事な仕事です。もう一つは未来に対する責任というのがあります。未来に対してどういう街づくりをしていくのか、そのことをしっかり踏まえてやっていかなければなりません。私はその二つをいつも思いながら議員活動をしています。
-------	--

※写真添付必須のこと

青森市議会議長 様

平成28年 1月20日

上記の通り報告いたします。

会場責任者 中田 靖人

出席議員 小倉 尚裕

出席議員 花田 明仁

出席議員 舘田 瑠美子

出席議員 長谷川 章悦

出席議員 斎藤 憲雄

出席議員 奈良岡 隆

出席議員 木下 靖

出席議員 村川 みどり

出席議員 山本 武朝

出席議員 天内 慎也

出席議員 橋本 尚美

